

## オリンピック問題で、

### 展示会中止を余儀なくされた場合の影響を考える

2016年3月

日本展示会協会 事務局長 桜井 悌司

東京ビッグサイトや幕張メッセがオリンピックの国際放送センター・メインプレスセンターや競技のため長期にわたり使用されることになっており、その結果、多くの展示会が中止を余儀なくされる。これら中止による経済的損失は膨大なものがある。展示会主催者は、当然のこと、中小企業を中心とする出展者はビジネス機会を失うことになるし、購入計画を立てているバイヤーにとっても大きな打撃となる。周辺のホテル、レストラン、交通手段にも大きな影響が及ぶ。

展示会の持つ特徴について、関係者以外の人々には、なかなか理解してもらえないこと多々ある。そのいくつかを紹介しよう。

#### 1) 展示会は毎年継続的に開催されるイベントであり、出展者・来場者等の動員規模が巨大であること

まず第一のポイントは、他のMICE産業と異なる点である。MICEを構成する他の3つのもの、Meeting、Incentive、Conventionは、一過性のイベントである。それゆえ、関係者は、誘致に大なる努力をする。大きいものは、オリンピックやワールドカップがあるし、国連、学会等国际会議やインセンティブ・ツアーも同様である。一度誘致をすると、次はなかなか順番が回って来ない。これに反して、展示会は毎年1回とか2回（隔年開催もあるが）継続的に開催される。他のイベントは一過性であるため、その時だけ関係者が潤うことになるが、展示会は毎年関係者が継続的に潤う重要なイベントなのである。動員規模をみても、他のMICEに比較して、圧倒的に大きい。国際会議にしても、数百人、多くて数千人の規模である。展示会は、数百から千を超える出展社、数万、数十万の来場者に及ぶ。このように、経済的波及効果の面でも他のMICEとは比較にならないくらい大きい。さらに展示会での数多くの成約に付随して商品やサービスの生産が始まり、そこから新規の雇用や利益が生じることも他のMICE産業では起こりえない。

#### 2) 元のレベルに戻すのは相当の苦勞が伴う

展示会が1度ないしは2度中止になると仮定しよう。主催者は常に自分たちが組織する展示会を毎年、量的にも質的にも拡大・改善すべく最大限の努力をしている。しかし、1～2回キャンセルとなると経済的損失は言うまでもなく甚大になり、従業員のレイオフや首切りの可能性も出てくる。モラルの低下も避けがたいし、過去に蓄積し

た経験やノウハウの一部が失われることになる。とすると、前回のレベルを下回るところからの再出発となる。毎年出展してくれる出展者とのコンタクトも希薄になるし、再開後の展示会は規模が縮小する可能性が高い。一方、出展者の立場から考えよう。出展者としては、いつも継続的に参加している展示会がなくなれば、残念に思うに違いない。しかしオプションは常に存在する。日本の他の都市で開催される展示会に出展することであるが、おそらく規模的には相当小さくなり、当初予定の成果を得ることができないと思われる。もう一つのオプションは、近隣諸国で開催される同類の国際見本市に出展することである、上海、広州、香港、韓国、台湾、シンガポールには多くの展示会が存在する。場合によっては、それら見本市の方が、より国際的でよりコストパフォーマンスが高いと考える出展社がいるかもしれない。直接出展コストは日本より安価だし、より商談型の展示会を展開している。社員を海外出張させることによってグローバル人材の育成にも役立つことになる。こうして日本の出展者は、日本から外に出ていくことになる。近隣諸国の展示会主催者は、大いに喜ぶことであろう。日本から逃げてくる日本企業の出展が増加し、ますます国際的競争力が増すことになるからである。

### 3) 日本の展示会の特質から来る問題点

日本の展示会は、よくPR型と言われる。一部の例外を除き、欧米諸国のように商談型ではない。すなわち成果が出るまで時間がかかる。私は、ジェットロ時代外国特に発展途上国からの輸出業者には、「日本市場は極めて大きく魅力的であるが、具体的成果を上げるには相当の時間がかかる。そのため、最低3年、できれば5年間、辛抱をして出展続ければ必ず成果が出る」と言うのを常としてきた。今でもこの考えに変わりはない。ただ、この段で行くと、一度、展示会がキャンセルになると、外国の出展者の成果を上げるための継続的努力が中断されることになり、再度参加する時には、一から始めることを余儀なくされる。とすると、そんなに手間暇かかるのなら、展示会が再開されても、出展を取りやめようということになる可能性がある。このようにして、外国からの出展者が相当減少することが考えられる。それに付随し、海外からのバイヤーも当然減少する。日本の展示会の国際化がさらに遅れることになる。

以上のようなことを考えると、1年以上のブランクは予想を上回るダメージや影響を展示会主催者、出展者に与えることになる。オリンピック問題は、短期・中長期の観点に立って対処しないと大いに禍根を残すことになろう。

上記の意見は、桜井個人の意見である。

以上